



飛騨の高山でこれらの人たちを祀る「飛騨匠神社」が、堀端町、飛騨護国神社境内に出来上がった。左甚五郎はじめ多くの棟梁(とうりょう)工人をうみ「飛騨匠」の名を残している神社は小さなつくりだが、出来ばえは精密なもの。そのうえ、この神社の建設は明治維新以来飛騨匠の伝統を継ぐ人たちの宿題となっていただけに関係者の喜びはひとしお。

今度の建設は去る 33 年春ごろから高山市の大工組合員堀新造さんと下島一郎さんの 2 人が同組合を代表して精魂こめてつくってきたもので、高さ約 1 メートルの石台に間口、奥行き各 1.5 メートル、高さ約 2 メートルの神殿だ。

明治維新のころ、すでに計画され、内務省へ飛騨の有力者たちが連名で嘆願書を出したが、当時は神社の新築が認められなかったという。その後、法律がゆるめられ、工事にかかったが、今度は資金難などのため一部つくっただけで延べ約 1 年間工事を中止していた。今度完成までこぎつけたのは飛騨地方の木材関係者などの間に資金面の協力が得られたからで、明治初年以来 90 余年でようやく出来上がった。

神社には故人となった工匠たちの位牌と今後の大工職人でなくなった人の位牌も納めるほか、年貢米を納める代わりに京都の御所の普請に出た大工がその仕事ぶりをたたえられて受けた菊の御紋入りの弓と当時の飛騨匠の名声をつづった古文書などを神宝として納める。

(第 4 代)長沢秋太郎高山大工組合長の話 長い間の夢だった匠神社が我々の代に出来たことは大変うれしい。なくなったたくさん先輩たちもよこんでくれることでしょう。いま飛騨国分寺にまつられてある「飛騨匠木鶴大明神」の木像が匠神社に飾れないのが残念だ。以前匠神社は国分寺内に神殿を持っていたが、あるとき大工と住職の意見が対立して別れることになった。そのとき匠の木像だけ大工側に渡されなかった。近々に今の住職にお願いして何とかもらい受けたいと思っています。(朝日新聞 飛騨版 昭和 36 年 9 月 19 日)



0001_全体像



0002_全体像



0003_全体像



0004_全体像



0005_全体像



0006_全体像



0007_全体像



0008_全体像



0009_全体像



0010_全体像



0011_全体像



0012_全体像



0013_全体像



0014_全体像



0015_全体像



0016_全体像



0017_全体像



0018_全体像



0019_全体像



0020_匠神社



0021_匠神社



0022_匠神社



0023_匠神社



0024_匠神社



0025_匠神社



0026_匠神社



0027_匠神社



0028_匠神社



0029_匠神社



0030_匠神社



0031_匠神社



0032_匠神社



0033_匠神社



0034_匠神社



0035_匠神社



0036_匠神社



0037_匠神社



0038_匠神社



0039_匠神社



0040_匠神社



0041_匠神社



0042_匠神社



0043_匠神社



0044_匠神社



0045_匠神社



0046_匠神社



0047_匠神社



0048_周辺



0049_周辺



0050_屋根



0051_屋根



0052_屋根



0053_屋根



0054_屋根



0055_屋根



0056_彫刻



0057_彫刻



0058_彫刻



0059_彫刻



0060_彫刻



0061_彫刻



0062_彫刻



0063_彫刻



0064_彫刻



0065_彫刻



0066_彫刻



0067_彫刻



0068_新聞記事



0069_正面



0070_正面



0071_高欄



0072_高欄



0073_高欄



0074_高欄



0075_高欄



0076_高欄



0077_高欄